

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

## 令和5年第22週の発生動向

### トピックス

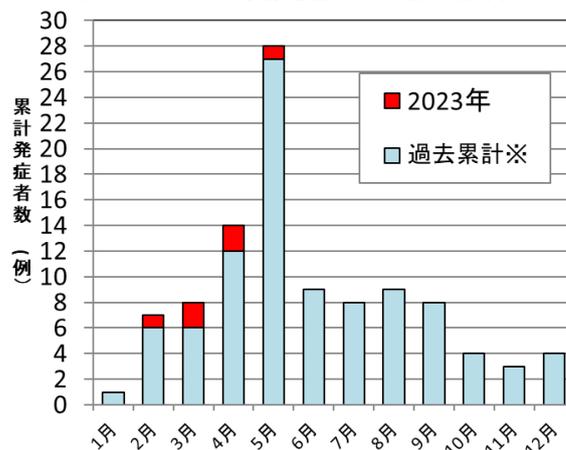
#### 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

(全数報告の感染症) の報告が高千穂保健所管内からあった。患者は70歳代の女性で、ダニの刺し口は確認できなかった。県内での報告は、累計103例となった。

県内のSFTS 年齢別報告数(届出開始以降)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	5	23	40	26	5

県内のSFTS月別発症者数(届出開始以降)



※2013年3月から2022年まで

### 全数報告の感染症 (22週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核1例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例。
- 5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症1例、水痘(入院例)1例、梅毒6例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	延岡	90歳代	男	肺結核	なし
4類	重症熱性血小板減少症候群	高千穂	70歳代	女	—	発熱、腹痛、肝機能障害
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	延岡	0~4歳	女	—	発熱、咳
	水痘(入院例)	日南	90歳代	女	検査診断例	発熱、発疹
	梅毒	宮崎市	10歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
			20歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
			30歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹
			20歳代	女	無症状病原体保有者	なし
都城	50歳代	女	早期顕症梅毒Ⅰ期	硬性下疳		
	日向	20歳代	男	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹	

### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,354人(定点当たり33.1)で、前週比98%とほぼ横ばいであった。なお、前週に比べ増加した主な疾患は咽頭結膜熱、感染性胃腸炎及び手足口病で、減少した主な疾患はインフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び流行性耳下腺炎であった。

### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

#### 【新型コロナウイルス感染症】

報告数は175人(3.0)で、前週比91%と減少した。高千穂(14.0)、延岡(4.1)、中央(3.5)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

【インフルエンザ】

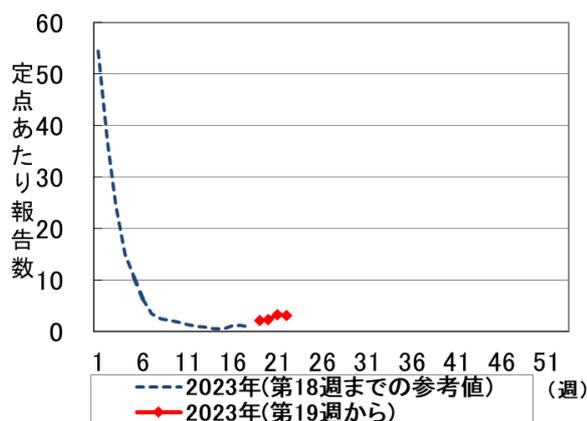
報告数は309人(5.3)で、前週比75%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値\*(0.13)の約41.2倍であった。都城(18.1)、小林(6.5)、宮崎市(5.1)保健所からの報告が多く、年齢群別は5歳から9歳が全体の約半数を占めた。

【ヘルパンギーナ】

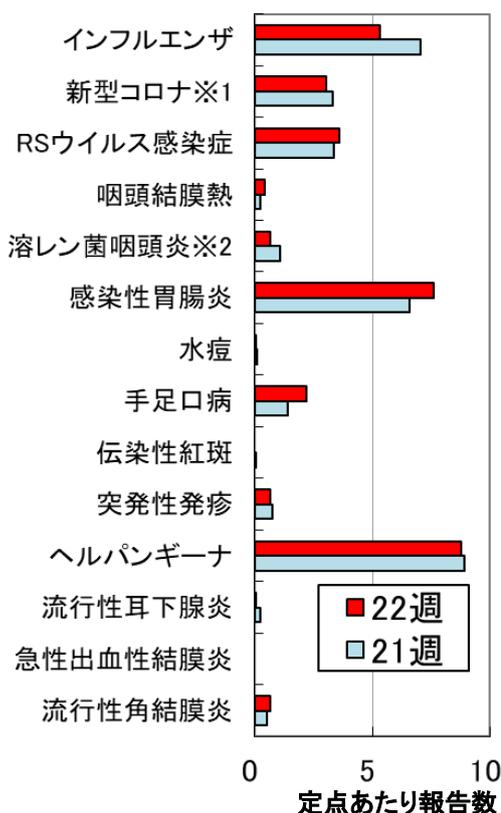
報告数は316人(8.8)で、前週比98%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点あたり平均値\*(0.74)の約11.9倍であった。宮崎市(12.4)、中央(11.0)、都城(10.2)保健所からの報告が多く、年齢群別は1歳から4歳が全体の約8割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

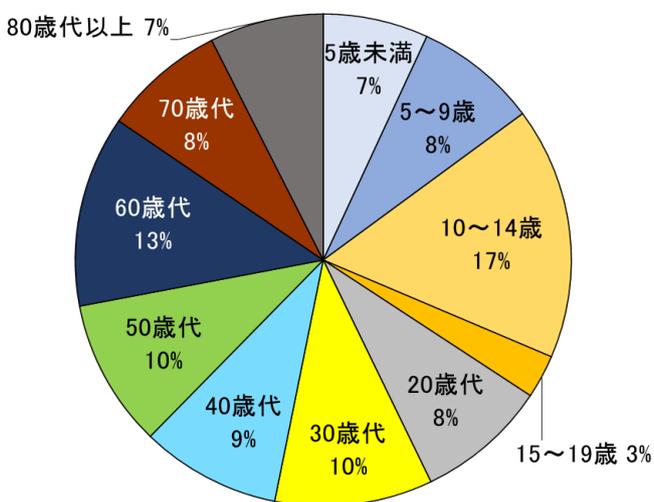
新型コロナウイルス感染症 発生状況



《前週との比較》

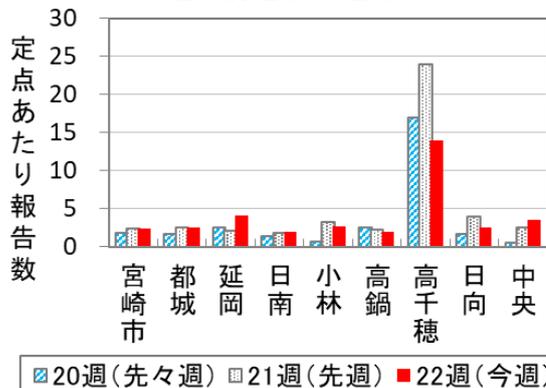


新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第22週)

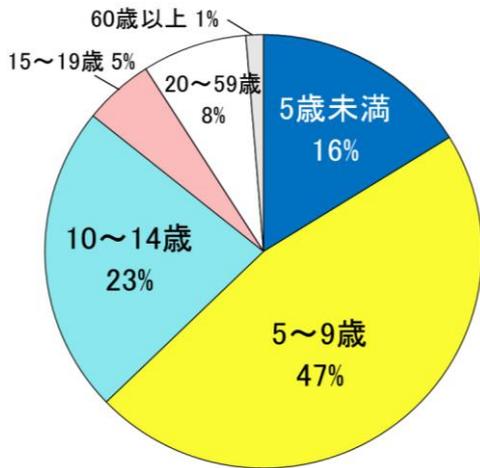


※新型コロナウイルス感染症の第1週～第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

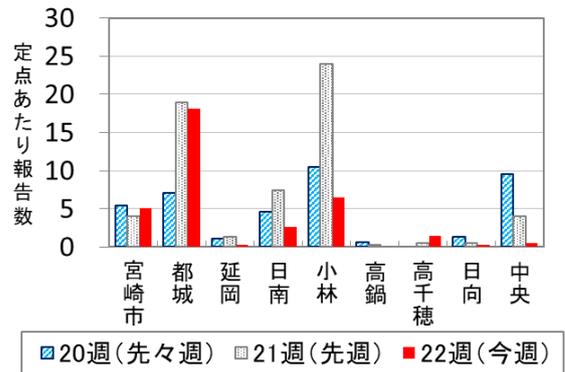
新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)



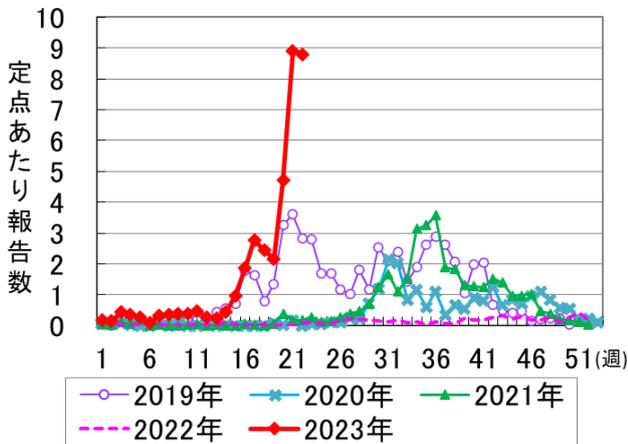
インフルエンザ年齢群別グラフ(第22週)



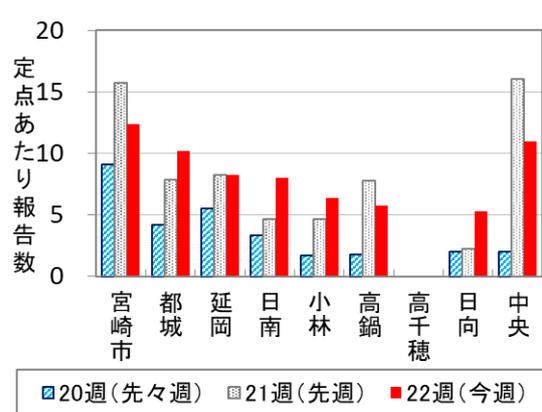
インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



ヘルパンギーナ 発生状況



ヘルパンギーナ 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	ヘルパンギーナ(12.4)
都城	インフルエンザ(18.1)、ヘルパンギーナ(10.2)
延岡	ヘルパンギーナ(8.3)
日南	ヘルパンギーナ(8.0)
小林	ヘルパンギーナ(6.3)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	ヘルパンギーナ(11.0)

\*流行警報レベル開始基準値\*

・ヘルパンギーナ(6)

\*流行注意報レベル基準値\*

・インフルエンザ(10)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和5年6月5日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EHEC(OUT:H16 VT1)	10歳代	男	2023.05.12	胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.05.23
EPEC(O146:H21)	60歳代	男	2023.05.15	発熱(37.5℃)	便	2023.05.26

○10歳代の男性から、腸管出血性大腸菌(EHEC)が分離された。EHEC感染症はVero毒素(VT)を産生、またはVT遺伝子を保有するEHECの感染によって起こり、主な症状は腹痛、下痢および血便である。嘔吐や38℃台の発熱をともなうこともある。VT等の作用により血小板減少、溶血性貧血、急性腎障害を来して溶血性尿毒症症候群(HUS)を引き起こし、脳症などを併発して死に至ることがある(IASR Vol.44 No.5(2023.5))。気温の上昇とともに患者数が増える傾向にあることから、今後の発生動向に注意が必要である。

★ウイルス なし

🇯🇵 全国 2023 年第 21 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	235 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	88 例	腸チフス	1 例		
4類感染症	E型肝炎	4 例	A型肝炎	1 例	エムポックス	6 例
	オウム病	1 例	回帰熱	1 例	重症熱性血小板減少症候群	5 例
	つつが虫病	4 例	デング熱	4 例	日本紅斑熱	13 例
	ライム病	1 例	レジオネラ症	40 例	レプトスピラ症	1 例
5類感染症	アメーバ赤痢	9 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	23 例
	急性脳炎	7 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9 例
	後天性免疫不全症候群	15 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	12 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	48 例	水痘(入院例)	7 例	梅毒	201 例
	播種性クリプトコックス症	5 例	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例
	百日咳	23 例	麻しん	1 例		

※4類感染症の「サル痘」の名称が「エムポックス」へ変更されました。

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比107%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は咽頭結膜熱、水痘、手足口病及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

インフルエンザの報告数は7,975人(1.6)で前週比86%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.19)の約8.4倍であった。宮崎県(7.1)、長崎県(4.1)、愛媛県(3.7)からの報告が多く、年齢群別では15歳未満が全体の約8割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は4,154人(1.3)で前週比182%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.11)の約11.8倍であった。宮崎県(8.9)、長崎県(4.6)、佐賀県(4.5)からの報告が多く、年齢群別では1歳から4歳が全体の約8割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2023年 22週(05月29日～06月04日)

疾病名		第21週	第22週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	410	309	81	181	2	13	26		3	2	1
	定点当り	7.07	5.33	5.06	18.10	0.29	2.60	6.50	0.00	1.50	0.33	0.50
新型コロナウイルス感染症	報告数	192	175	38	25	29	10	11	12	28	15	7
	定点当り	3.31	3.02	2.38	2.50	4.14	2.00	2.75	2.00	14.00	2.50	3.50
RSウイルス感染症	報告数	121	130	44	13	10	5	9	20		8	21
	定点当り	3.36	3.61	4.40	2.17	2.50	1.67	3.00	5.00	0.00	2.00	21.00
咽頭結膜熱	報告数	9	15	5	6	1	2	1				
	定点当り	0.25	0.42	0.50	1.00	0.25	0.67	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	38	24	9	5	2	2	1	2		2	1
	定点当り	1.06	0.67	0.90	0.83	0.50	0.67	0.33	0.50	0.00	0.50	1.00
感染性胃腸炎	報告数	237	274	103	33	4	13	53	16	10	27	15
	定点当り	6.58	7.61	10.30	5.50	1.00	4.33	17.67	4.00	10.00	6.75	15.00
水痘	報告数	3	2	1			1					
	定点当り	0.08	0.06	0.10	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	51	79	19	20	3	11	7			16	3
	定点当り	1.42	2.19	1.90	3.33	0.75	3.67	2.33	0.00	0.00	4.00	3.00
伝染性紅斑	報告数	1										
	定点当り	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	27	24	10	2	1	1	3	5		1	1
	定点当り	0.75	0.67	1.00	0.33	0.25	0.33	1.00	1.25	0.00	0.25	1.00
ヘルパンギーナ	報告数	321	316	124	61	33	24	19	23		21	11
	定点当り	8.92	8.78	12.40	10.17	8.25	8.00	6.33	5.75	0.00	5.25	11.00
流行性耳下腺炎	報告数	9	2		1	1						
	定点当り	0.25	0.06	0.00	0.17	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	3	4	3		1						
	定点当り	0.50	0.67	1.00	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2023年 第1週～22週)

2類感染症	結核	50例(1)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4例	腸チフス	1例	
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	6例(1)	つつが虫病	10例	
	レジオネラ症	1例		日本紅斑熱	2例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	4例	
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	3例	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例	後天性免疫不全症候群	4例	
	水痘(入院例)	2例(1)	梅毒	83例(6)	
	百日咳	4例		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例
				クロイツフェルト・ヤコブ病	2例
				侵襲性肺炎球菌感染症	8例(1)
				播種性クリプトコックス症	3例

( )内は今週届出分、再掲